

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300060		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームたんより かわせみユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1		
自己評価作成日	平成31年2月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&jiyosyoCd=2296300060-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気はありつつも、入居に関して入居者も家族にとっても安心していただけるようなサービス提供を意識しています。昨年は入居者4名の看取り対応を行いました。出来る限り苦痛なく最期の時を過ごしていただき、また家族との時間・空間も確保できたことは、厳しい業務ではありましたが、職員にとっては大きなやりがいや自信につながったのではないかと思います。そのためには、提携している公立森町病院との連携や、森町役場、近隣施設や地域の方々との交流が不可欠であると痛感します。今後も、たんよりで生活することが、本人にとってもまた家族にとっても安心できると実感していただくことをサービスの要としていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

午前、午後ともにかわせみユニットにほぼ全員が集い、体操や歌集を手に合唱する様子はながら『たんより老人会』といったコミュニティが形成されているかのようで、活気に溢れています。森町病院のリハビリテーション担当の理学療法士と作業療法士による『体力アップのための体操』をビデオに収め毎日取組んでおり、「意識をすることが大事」と太ももを指差しながら「ここ(大腿四頭筋)を鍛えようね」と促し午前中の音楽体操、午後のレク時間を当て日々積み重ねています。これまで多かった手作業から体操に取組みを移行して転倒がなくなり、専門家の助言によって進めたことに効果が出て嬉しいと皆で悦んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は『やさしさ・安心・安寧』を掲げています。認知症であっても一人一人がその人らしく、人生の最期まで安心して生活できるよう、今年も職員がスローガンを考え、実践しています。	理念、本年のスローガンともに事務所、ユニットに掲示され、1月のホーム会議で一年を振り返り、評価のうえ、職員全員で新しいスローガンを決めています。また指示待ちや標準まで達しないスキルへの協議で『協力』という言葉が出てくるという光明は本年度の成果です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティア、また近隣住民の方が引き続きレクリエーションや畑の管理、農作物の差し入れ、また今年も雛人形を飾ってくれる等、関わってくださっています。イベント等にもたんよりとして参加しています。	認知症カフェは町内3ヶ所の介護保険事業所と地域包括支援センターが毎月持回り開催となって継続されていて、集まりには高校生も加わり、介護相談も成されています。4年前より雛飾りを持ち込んで時節行事を盛り上げてくださる近所の男性もいて、地域に溶け込んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんより通信という所内通信を回覧し、運営推進会議では写真等を用いて報告しています。認知症対策検討委員会への参加や、他職種カンファレンス、また認知症カフェの開催も行い、情報交換しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、町内会長・副会長・民生委員の方々がほぼ毎回出席して下さり、ご意見を頂いています。今年度は災害が多かったこともあり、防災面でのアドバイスを早速活用させていただきました。	行政、地域、家族と、運営推進会議には各方面からの参加が得られ、特に町内会からは会長、副会長と2名揃って出席くださっています。アンケート話し合いは密で、事業所と家族が抱える課題や災害対策等、共に考えてもらえる場となっていることを議事録より確認できます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	森町役場や地域包括センター窓口へは、積極的に訪問し、入居者やその他の情報交換を直接行っています。町の相談員の方も協力して下さり、防災訓練に参加して頂きました。	森町役場、地域包括支援センター職員は運営推進会議に毎回足を運んでくださり、介護相談員も3ヶ月に1度の来訪で、事業所の変化について感想を述べてくださっていて、外部者意見として嬉しく受け止めています。事業所も多職種合同カンファレンスなどで連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を継続しています。毎回ホーム会議において拘束についての会議を開催し、職員間で意識統一しています。スピーチロックについても注意するなど職員の啓蒙活動の場としています。	法改正に伴い指針・マニュアルを整備、『身体拘束廃止委員会』を設置し、委員会4回、研修2回、新入社員研修の実施も滞りなく終えています。今回の委員編成では『専門家』を求められていますが、医師、看護職員、機能訓練指導員などもメンバーに加えることができています。	『身体拘束廃止委員会』は毎月のホーム会議で改訂前から取組んでいたことですので、改めて法改正に準じているか見直し、年度末までに本件の書類及びファイルを整備することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護上でのニュース等、報道がなされた時など、朝礼やカンファレンスを行い、職員間で考える機会とし、意識するよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も、該当する入居者はいませんが、地域の勉強会や他職種カンファレンスではよく議題にあがる内容のため、参加した職員が情報を周知するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご家族様に時間を確保していただき、できるだけ丁寧に説明するよう心掛けています。環境が変わることでの不安等を解消できるよう、できるだけわかりやすい説明を行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に状態を報告することはもちろん、運営推進会議への家族の参加を依頼し、率直な意見を頂いています。また、毎月の家族へのお手紙も写真付きのものとし、個性を出してみました。	面会のほか、運営推進会議の議事録や『たんより通信』を通じて家族とは日々の情報共有が叶い、また『たんよりフェスタ』として呼びかけた家族会には15家族が集い、一緒にランチを摂り、ボランティアのフラダンス観覧の後、記念撮影の笑顔に結ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、朝礼を行い情報交換や問題共有をしています。必要であればカンファレンスを行い、問題解決へ繋げています。また個別面接以外でも、いつでも職員の意見を聞けるような雰囲気作りを心掛けています。	8年在籍の主任が退任の時を迎え、当初は指示する存在がなくなって戸惑った職員がいたものの、話し合いも重ね、現在では気づきが増え、改善提案が直接管理者に入るよう変化しており、職員に自律の言動が増えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回、職員各自の反省と目標設定の機会を設け、業務に対する自己評価しており、管理者として評価を行います。各職員の能力を把握し、業務に対してやりがいが持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎回ホーム会議において勉強会を行い、日々の業務において活用できるような疾患や器具の使用方法などを、職員が交代で講師となる勉強の場を持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、近隣施設の小規模多機能ホームとの交流が密になっています。お互いに職員・入居者を連れて気軽に交流し、レクリエーションや作品作り等、参考にしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入居申込時、事前訪問、また入居までの経過において、病状や現在の状況、本人が感じ思っていることを出来るだけ把握出来るよう、ケアマネや利用施設、地域包括と情報交換し、安心できるようなケアの提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同時進行で、本人以外の家族等がどう考えなのを望んでいるのか情報収集し環境を整え、家族等と一緒に考え問題解決できるようにしていきます。入居後も随時傾聴し、関係を築いていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等、ケアマネージャー、また病院相談員、支援員、利用施設職員と連携を密にし、その時何が必要なのかということを見極め、サービス決定につながるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の家事等(洗濯物を干す・たたむ・食事準備・後片付け・掃除・畑の管理収穫)入居者ができることは一緒に行います。それぞれの方に役割が分担され、職員とも入居者同士とも協力し合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が入居者と入居以前からの関係性が保たれるよう面会や外出泊はいつでも自由にできるような体制をとっています。イベント等にも気軽に参加していただく機会も設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出話や過去の話等を傾聴するようにしています。学生時代の話をしたり実家の話をしたりしますが、関連のある内容を提供したり、必要であれば連絡を取るよう支援しています。	「面会は夜中でない限り大丈夫ですよ」と伝え、歓迎の意を伝えていきます。暮れから正月にかけて6名が自宅で過ごし、内3名は外泊して戻ってきますが、少し疲れるらしく「悔しいけど此処はいいね」とこぼす人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても気が合う合わないということは生じてしまいますが、入居者同士の関係性を把握し、食事時やレクリエーション時の席の配置等を考慮しています。孤立するようなことのないよう対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者が看取りまで対応しており、退去後はデスカンファレンスを行い職員から家族等へメッセージを届けています。自宅へ退去された方に関しては、退去時指導を通じて、必要時経過フォローを行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報等、また入居後の情報も含めて、希望や意向を把握し対応しています。入居後も引き続き情報収集を継続しニーズを相談しながら個別的ケアを行うようにしています。	日中は居室に戻らずリビングで過ごすことが多いことから、会話の中で「～したい」「～が食べたい」の要望が出てきています。掴んだ本人の言葉は、朝礼のカンファレンスで共有し、想いを叶えるため懸案として記録に残しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学や入居申し込み、事前訪問、契約時等に生活歴や今までの経過、人物像を伺い把握するようにしています。また、ケアマネや利用サービス等へも確認するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を記録に残し、職員が情報を共有します。入居者一人ひとりがどのような状態か、能力があるかを見極め、次のケアにつなげます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況、また家族の意見や希望を反映させ、職員間でカンファレンスを行い介護計画を検討・立案しています。現状を常に把握するようにし計画に活かしています。	本年はサービス担当者会議に力を注ごうとしていましたが、看取りが4名続いたため予定通りとはゆきませんでした。ですが、在宅復帰では3ヶ月の期間をかけ居室や福祉用具、通所介護の職員を交え、複数回開催して円滑な移行ができ、達成感あるケースとして成就しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子・状態を記録として、記録用紙やカルテに記入、ファイリングしています。必要時入居者カンファレンスを行い、介護計画の見直し等に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、予定外ではあっても、希望に出来るだけ即した対応をするようにしています。そのためには、必要時に家族等にも協力を依頼することもあります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員や近隣住民、ボランティアの方々がいつでも気軽に来所してもらえるようになりました。日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係を築くよう心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	公立森町病院院長が主治医として月に一度、定期往診で来所し入居者を診察しています。急な体調変化やケガ等の場合は病院の往診担当職員やコメディカルと連携を図り、スムーズに外来受診が出来るようにしています。	月に1度、訪問診療をおこなう協力医に全員が変更しています。皮膚科、歯科など診療科目がそろい、24時間コールは地域支援室が担い、コメディカル(医師以外看護師、事務職員等)が外堀を固め、安心の医療体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たんより管理者が看護師であるため、介護職員と連携し、病状管理や状態変化に対応しています。看護師は24時間待機にて必要であれば病院へ連絡し相談・対応してもらうようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より情報交換を行っており、入院決定のタイミングでホーム入居時の状況を速やかに伝達し、活用してもらっています。面談にも参加し、出来るだけ早期に退院できるよう調整しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後、初回往診にて本人・家族等と状態変化や病状悪化、急変時の対応、看取りなど、今後どのように対応していくか話し合う機会を設けています。それに基づき医療者とチーム体制で対応しています。	『重度化に係る指針』の説明に加え、初回の訪問診療では家族に同席してもらい「呼吸器をつけるか」等の救急対応も医師と直接確認をとっています。本年度の実績は4名で、職員自ら「たんよりでの大切な人とお別れについて」の冊子を読み返して、真摯に向き合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、看護師が随時、勉強会や研修を行っています。実際には、看護師が指示を出し、他職員が落ち着いて行動できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火・防災・水害訓練を行い、避難する方法を職員・入居者共に身につけるようにしています。地域役員や近隣住民にもたんよりの存在をアピールし、実際に災害発生時は協力体制を依頼しています。	年2回の総合防災訓練及び、夜間想定訓練として19時実施であっても、消防士や民生委員が立ち会ってくださっています。薄暗い中、転倒しないように駐車場まで避難誘導、いつもの防災訓練とは違った雰囲気にも利用者も真剣に取り組む、「よくできた」と評価してもらっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても人格を尊重し、人生の大先輩として対応するよう意識して、入居者へケアをするように心掛けています。それぞれの方の世界観を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのないようにします。	個人情報保護について契約時に家族と合意するとともに、職員には尊厳や言葉遣いについての学びの場を設け、「丁寧語を基本としながらも堅苦しくなりすぎないように」と指導しています。難聴の人には大きな声にならないよう『もしもしフォン』で尊重した対応につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの気持ち・思いや考え方を尊重し、それを表出しやすい状況設定に努めています。職員が決定するのではなく、本人が自己決定し選択できるような生活支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月や一週間、一日の予定はありますが、入居者の状態や状況により、無理に強制することなく自分のペースで生活できるよう、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の入居者の好みや趣味を把握し、髪型や化粧・ファッションなど、出来るだけ本人の趣向に沿うように支援しています。男性にも、髭剃りや散髪など、希望に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや調理レクでは、下ごしらえや盛り付けなど危険のない範囲で入居者と共に行ったり、食べたいものを聞いて特別メニューを提供したり、食事が楽しみとなるようにしています。	お気に入りの犬のぬいぐるみをテーブルに置く利用者にはわんちゃんにもご飯あげなきゃ、「ヨーグルトは孫が大好きだね、いつも狙われちゃうんだ」と会話が弾み明るい食卓です。また調理レクリエーションも盛んで、人気のおはぎは、すりこぎが取り合いになるほどです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や嗜好・好みを考慮しながら、入居者の栄養状態・水分摂取量を把握し対応しています。食欲減退や状態変化時は、食べたいもの・食べられるものを提供し、栄養管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は肺炎につながることから、毎食後の口腔ケア・義歯管理は確実にこなすようにしています。必要であれば、口腔外科受診も検討し、対応していきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まずは入居後の排泄パターンや回数をチェックし、把握するように努めます。出来るだけトイレで排泄が出来るよう、サインを見逃さないようにし、訴えがない方は誘導するなど対応しています。	個々の排泄パターンを把握しての声かけをおこなっています。うつ症状もあり寝たきりで立位も取れず、入居時は全く訴えがなかった人は、食前・食後の定時誘導から試みて、少しずつ意欲が増しトイレで排泄したり日中リビングで過ごせるほどになった、との例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方に頼ることなく、乳製品やオリゴ糖、オリーブオイルなどを取り入れ、排便を促すようにしています。全身運動や歌を唄うなど、腹筋を使うような対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設や職員の都合で入浴する場合もあるが、できるだけ本人の希望に沿って入浴したいタイミングで入れるよう配慮しています。拒否がある場合は無理強いすることせず、機会を伺い行います。	入浴は要望に応じて週4回の人もいます。普段は2種類の入浴剤を備えています。家族から届いた柚子で変わり湯とする日もあり、また湯につかると気分よく歌が飛び出す人もいます。医師の指示がなければ本人本位とし、1時間くらいかけてミソンの洗身に余念のない人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムを把握し、その人のペースで休息や入眠ができるよう対応しています。女子会や夜間カフェなど、眠れない入居者には寄り添い対応します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を利用、薬剤に関しては担当薬剤師に確認し、指導を受けています。効果や副作用・用法・用量を理解し、薬効による体調変化を観察します。介護職員へも指導し、対応できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の後片付け、洗濯物干しやたたみ、畑仕事など、入居者の得意分野を活かした役割分担をしています。やりがいを感じ、生きているという実感を抱いていただけるよう支援します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気を感じたいという希望があれば、玄関先にてお茶を飲んだりおしゃべりしたりします。希望があれば、散歩や買い物ドライブに出掛けます。	穏やかな日は玄関先でおやつを食べながら外気浴おこない、散歩は春秋に個別対応としています。年間の外出行事は春の花見、秋の紅葉狩りがあり、数名でミニドライブも月1回程度は実施しています。また納涼祭では輪の中に入って踊る姿も見られ、地域行事にもかけています。	バス旅行が再開されたらなおよいと思うため、外出企画の係や担当があるか、難しい場合はその役割を管理者が担ってくださることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人に付き小口現金(お小遣い)預かり、一緒に買い物したり職員代行で必要なものを買ったりしています。遣ったら適宜本人へ説明しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、希望があれば随時対応しています。実際に話すとき落ち着きます。手紙は、現在自ら書く方は居ませんがお正月には皆さん年賀状を書きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の目線だけでなく、入居者・家族等の目線で環境を整えるようにし、居心地の良い空間となるよう努めています。自宅のようにリラックスできるような模様替え・配置換えも適宜行います。	モビール、折り紙、ぬり絵作品、写真掲示など彩ある共用空間です。清掃は週間計画として項目を定めてチェックリストに従って日勤が担当しています。フロア、手すり、居室、トイレは次亜塩素酸を薄めたものを使い、換気扇、台所は夜勤がおこなっていて清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等共用スペースは入居者同士で過ごすことが多いのですが、時には一人の時間が持てることも気にかけています。またユニットを越えて入居者同士が過ごせる環境を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自宅から、本人が使い慣れたなじみのもの、思い出のあるものを持参してもらい、希望に沿い違和感なく心地よい生活の場となるよう努めています。	大半がかわせみユニットで合唱する時間、居室で静かに過ごす利用者は、認知症も軽度で「会長」と呼ばれています。食後の洗い物を済ませると自室に戻り、ぬり絵に集中しており、積み上げられた作品の数々に毎日の暮らしが重ね合せて映り、それぞれの安寧が覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解度に差があり、当たり前であることも場所の表記をしたり目印をつけたりするなど、不安を抱くことなく生活していただけるよう対応しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300060	
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局	
事業所名	グループホームたんより さざんかユニット	
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1	
自己評価作成日	平成31年2月11日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&jiyosyoCd=2296300060-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気はありつつも、入居に関して入居者も家族にとっても安心していただけるようなサービス提供を意識しています。昨年は入居者4名の看取り対応を行いました。出来る限り苦痛なく最期の時を過ごしていただき、また家族との時間・空間も確保できたことは、厳しい業務ではありましたが、職員にとっては大きなやりがいや自信につながったのではないかと思います。そのためには、提携している公立森町病院との連携や、森町役場、近隣施設や地域の方々との交流が不可欠であると痛感します。今後も、たんよりで生活するということが、本人にとってもまた家族にとっても安心できると実感していただくことをサービスの要としていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

午前、午後ともにかわせみユニットにほぼ全員が集い、体操や歌集を手に合唱する様子はながら『たんより老人会』といったコミュニティが形成されているかのようで、活気に溢れています。森町病院のリハビリテーション担当の理学療法士と作業療法士による『体力アップのための体操』をビデオに収め毎日取組んでおり、「意識をすることが大事」と太ももを指差しながら「ここ(大腿四頭筋)を鍛えようね」と促し午前中の音楽体操、午後のレク時間を当て日々積み重ねています。これまで多かった手作業から体操に取組みを移行して転倒がなくなり、専門家の助言によって進めたことに効果が出て嬉しいと皆で悦んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は『やさしさ・安心・安寧』を掲げています。認知症であっても一人一人がその人らしく、人生の最期まで安心して生活できるよう、今年も職員がスローガンを考え、実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティア、また近隣住民の方が引き続きレクリエーションや畑の管理、農作物の差し入れ、また今年も雛人形を飾ってくれる等、関わってくださっています。イベント等にもたんよりとして参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんより通信という所内通信を回覧し、運営推進会議では写真等を用いて報告しています。認知症対策検討委員会への参加や、他職種カンファレンス、また認知症カフェの開催も行い、情報交換しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、町内会長・副会長・民生委員の方々がほぼ毎回出席して下さり、ご意見を頂いています。今年度は災害が多かったこともあり、防災面でのアドバイスを早速活用させていただきました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	森町役場や地域包括センター窓口へは、積極的に訪問し、入居者やその他の情報交換を直接行っています。町の相談員の方も協力して下さり、防災訓練に参加して頂けました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を継続しています。毎回ホーム会議において拘束についての会議を開催し、職員間で意識統一しています。スピーチロックについても注意するなど職員の啓蒙活動の場としています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護上でのニュース等、報道がなされた時など、朝礼やカンファレンスを行い、職員間で考える機会とし、意識するよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も、該当する入居者はいませんが、地域の勉強会や他職種カンファレンスではよく議題にあがる内容のため、参加した職員が情報を周知するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご家族様に時間を確保していただき、できるだけ丁寧に説明するよう心掛けています。環境が変わることでの不安等を解消できるよう、できるだけわかりやすい説明を行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に状態を報告することはもちろん、運営推進会議への家族の参加を依頼し、率直な意見を頂いています。また、毎月の家族へのお手紙も写真付きのものとし、個別性を出してみました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、朝礼を行い情報交換や問題共有をしています。必要であればカンファレンスを行い、問題解決へ繋げています。また個別面接以外でも、いつでも職員の意見を聞けるような雰囲気作りを心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回、職員各自の反省と目標設定の機会を設け、業務に対する自己評価をしており、管理者として評価を行います。各職員の能力を把握し、業務に対してやりがいを持たせるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎回ホーム会議において勉強会を行い、日々の業務において活用できるような疾患や器具の使用方法などを、職員が交代で講師となる勉強の場を持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、近隣施設の小規模多機能ホームとの交流が密になっています。お互いに職員・入居者を連れて気軽に交流し、レクリエーションや作品作り等、参考にしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入居申込時、事前訪問、また入居までの経過において、病状や現在の状況、本人が感じ思っていることを出来るだけ把握出来るよう、ケアマネや利用施設、地域包括と情報交換し、安心できるようなケアの提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同時進行で、本人以外の家族等がどう考えなのを望んでいるのか情報収集し環境を整え、家族等と一緒に考え問題解決できるようにしていきます。入居後も随時傾聴し、関係を築いていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等、ケアマネージャー、また病院相談員、支援員、利用施設職員と連携を密にし、その時何が必要なのかということを見極め、サービス決定につながるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の家事等(洗濯物を干す・たたむ・食事準備・後片付け・掃除・畑の管理収穫)入居者ができることは一緒に行います。それぞれの方に役割が分担され、職員とも入居者同士とも協力し合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が入居者と入居以前からの関係性が保たれるよう面会や外出泊はいつでも自由にできるような体制をとっています。イベント等にも気軽に参加していただく機会も設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出話や過去の話等を傾聴するようにしています。学生時代の話をしたり実家の話をしたりしますが、関連のある内容を提供したり、必要であれば連絡を取るよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても気が合う合わないということは生じてしまいますが、入居者同士の関係性を把握し、食事時やレクリエーション時の席の配置等を考慮しています。孤立するようなことのないよう対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者が看取りまで対応しており、退去後はデスカンファレンスを行い職員から家族等へメッセージを届けています。自宅へ退去された方に関しては、退去時指導を通じて、必要時経過フォローを行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報等、また入居後の情報も含めて、希望や意向を把握し対応しています。入居後も引き続き情報収集を継続しニーズを相談しながら個別的ケアを行うようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学や入居申し込み、事前訪問、契約時等に生活歴や今までの経過、人物像を伺い把握するようにしています。また、ケアマネや利用サービス等へも確認するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を記録に残し、職員が情報を共有します。入居者一人ひとりがどのような状態か、能力があるかを見極め、次のケアにつなげます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況、また家族の意見や希望を反映させ、職員間でカンファレンスを行い介護計画を検討・立案しています。現状を常に把握するようにし計画に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子・状態を記録として、記録用紙やカルテに記入、ファイリングしています。必要時入居者カンファレンスを行い、介護計画の見直し等に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、予定外ではあっても、希望に出来るだけ即した対応をするようにしています。そのためには、必要時に家族等にも協力を依頼することもあります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員や近隣住民、ボランティアの方々がいつでも気軽に来所してもらえるようになりました。日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係を築くよう心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	公立森町病院院長が主治医として月に一度、定期往診で来所し入居者を診察しています。急な体調変化やケガ等の場合は病院の往診担当職員やコメディカルと連携を図り、スムーズに外来受診が出来るようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たんより管理者が看護師であるため、介護職員と連携し、病状管理や状態変化に対応しています。看護師は24時間待機にて必要であれば病院へ連絡し相談・対応してもらうようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より情報交換を行っており、入院決定のタイミングでホーム入居時の状況を速やかに伝達し、活用してもらっています。面談にも参加し、出来るだけ早期に退院できるよう調整しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後、初回往診にて本人・家族等と状態変化や病状悪化、急変時の対応、看取りなど、今後どのように対応していくか話し合う機会を設けています。それに基づき医療者とチーム体制で対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時については、看護師が随時、勉強会や研修を行っています。実際には、看護師が指示を出し、他職員が落ち着いて行動できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火・防災・水害訓練を行い、避難する方法を職員・入居者共に身につけるようにしています。地域役員や近隣住民にもたんよりの存在をアピールし、実際に災害発生時は協力体制を依頼しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても人格を尊重し、人生の大先輩として対応するよう意識して、入居者へケアをするように心掛けています。それぞれの方の世界観を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのないようにします。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの気持ち・思いや考え方を尊重し、それを表出しやすい状況設定に努めています。職員が決定するのではなく、本人が自己決定し選択できるような生活支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月や一週間、一日の予定はありますが、入居者の状態や状況により、無理に強制することなく自分のペースで生活できるよう、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の入居者の好みや趣味を把握し、髪型や化粧・ファッションなど、出来るだけ本人の趣向に沿うように支援しています。男性にも、髭剃りや散髪など、希望に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや調理レクでは、下ごしらえや盛り付けなど危険のない範囲で入居者と共に行ったり、食べたいものを聞いて特別メニューを提供したり、食事が楽しみとなるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や嗜好・好みを考慮しながら、入居者の栄養状態・水分摂取量を把握し対応しています。食欲減退や状態変化時は、食べたいもの・食べられるものを提供し、栄養管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚染は肺炎につながることから、毎食後の口腔ケア・義歯管理は確実にこなすようにしています。必要であれば、口腔外科受診も検討し、対応していきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まずは入居後の排泄パターンや回数をチェックし、把握するように努めます。出来るだけトイレで排泄が出来るよう、サインを見逃さないようにし、訴えがない方は誘導するなど対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方に頼ることなく、乳製品やオリゴ糖、オリーブオイルなどを取り入れ、排便を促すようにしています。全身運動や歌を唄うなど、腹筋を使うような対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設や職員の都合で入浴する場合もあるが、できるだけ本人の希望に沿って入浴したいタイミングで入れるよう配慮しています。拒否がある場合は無理強いすることせず、機会を伺い行います。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムを把握し、その人のペースで休息や入眠ができるよう対応しています。女子会や夜間カフェなど、眠れない入居者には寄り添い対応します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を利用、薬剤に関しては担当薬剤師に確認し、指導を受けています。効果や副作用・用法・用量を理解し、薬効による体調変化を観察します。介護職員へも指導し、対応できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の後片付け、洗濯物干しやたたみ、畑仕事など、入居者の得意分野を活かした役割分担をしています。やりがいを感じ、生きているという実感を抱いていただけるよう支援します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気を感じたいという希望があれば、玄関先にてお茶を飲んだりおしゃべりしたりします。希望があれば、散歩や買い物ドライブに出掛けます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人に付き小口現金(お小遣い)預かり、一緒に買い物したり職員代行で必要なものを買ったりしています。遣ったら適宜本人へ説明しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、希望があれば随時対応しています。実際に話すと落ち着きます。手紙は、現在自ら書く方は居ませんがお正月には皆さん年賀状を書きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の目線だけでなく、入居者・家族等の目線で環境を整えるようにし、居心地の良い空間となるよう努めています。自宅のようにリラックスできるよう模様替え・配置換えも適宜行います。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等共用スペースは入居者同士で過ごすことが多いのですが、時には一人の時間が持てることも気にかけています。またユニットを越えて入居者同士が過ごせる環境を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自宅から、本人が使い慣れたなじみのもの、思い出のあるものを持参してもらい、希望に沿い違和感なく心地よい生活の場となるよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解度に差があり、当たり前であることも場所の表記をしたり目印をつけたりするなど、不安を抱くことなく生活していただけるよう対応しています。		